

では、「ふるさとキャリア教育」を家庭ではどのように実践するの？

子どもとの日々の触れ合いやしつけなど家庭教育の在り方、働くことへの保護者の考え方や態度が、子どもの生き方につながっていくことを自覚し、地域や学校と一体になって取り組むことが大切です。

高校生

☆社会の一員としての自覚と参画、保護者や身近な大人の生き方の理解を通して、将来の生き方と当面する進路の明確化とその実現への努力を援助する。

乳児期に家族など特定の大人との信頼関係が形成され、安定した情緒の下に好奇心や主体性、人やものに関わる力が芽生えていきます。その後、人間関係や生活体験を通して、基本的な生活習慣や生活能力、豊かな情操、規範意識、自立心や自制心などを身に付けていきます。子どもたちは家庭を基盤に、自分の個性や持ち味を発揮して成長していきます。

中学生

☆家庭での役割の理解と遂行、保護者や身近な大人の職業等の理解を通して、社会の一員としての自覚を高めるとともに、将来の生き方や進路への希望を育む。



休日を利用して、家族で「ふるさと大館名所手帳」に紹介されている史跡や名所巡りをすることは、大館のよさを自ら発見することにつながります。

小学生

☆“将来の夢”などについての家庭での会話や家事の手伝いなどを通して、将来の夢や希望を育むとともに、集団生活に参加しようとする意欲・態度を養う。



子どもと一緒に、公民館の活動や地域行事、ボランティアに参加することは、大変さとともに、地域とのつながり、充実感や達成感を実感させることができる貴重な機会にもなります。

就学前

☆子どもとの触れ合いや家族での様々な体験を大切に、人や物事に積極的にかかわろうとする意欲・態度を養う。



(文部科学省)



大館少年自然の家では、自然体験や勤労体験、ふるさとを知る体験を提供しています。親子で感動を共有したり、共に汗を流したりすることで家族としての絆が深まります。

矢立中学区、田代中学区で実践している「自立プラン」のように、就学前から中学校まで発達段階に応じて育てたい生活習慣(お手伝い、挨拶、生活リズム、家庭学習、食育など)を地域や学校と連携して進めている取組もあります。



最も身近な大人である保護者が地域の中で子どもと一緒に活動をし、大館のよさを実感したり、感動を共有したりすることは、子どもの人格形成や心身の発達に大きな影響を与えます。何よりも保護者自身が、地域の一員として貢献する姿、職業人として働く姿を子どもに見せたり、働くことの大切さを語ったりすることで、子どもは「働くこと」「生きること」を学んでいくのです。